

都市再生整備計画 事後評価シート

天童古城地区(第2期)

平成30年 3月

山形県天童市

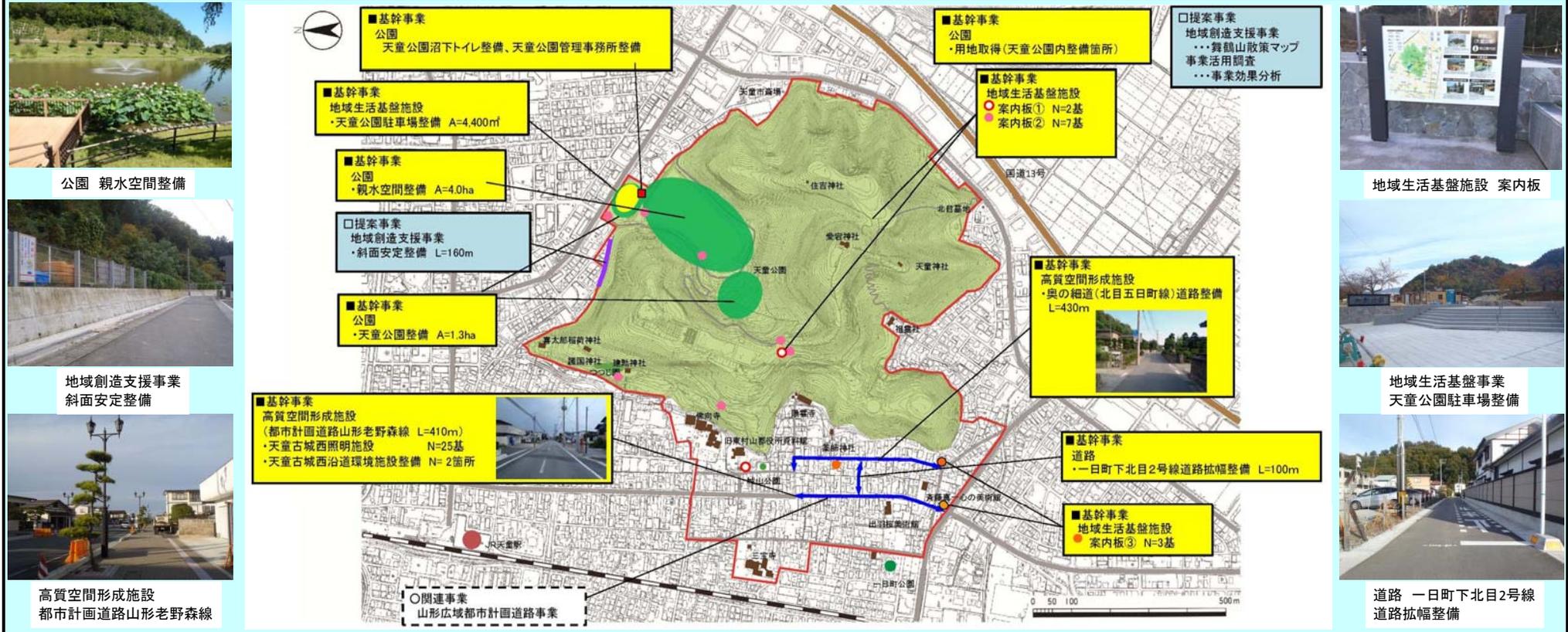
様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	山形県		市町村名	天童市		地区名	天童古城地区(第2期)			面積	89ha	
交付期間	平成25年度～平成29年度		事後評価実施時期	平成29年度		交付対象事業費	618.8百万円	国費率	0.4			
1)事業の実施状況	事業名											
	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	道路(一日町下北目2号線)、公園(天童公園)、地域生活基盤施設(案内板)、高質空間形成施設(奥の細道、天童古城西照明施設、天童古城西沿道環境施設整備、天童古城西松木整備)									
		提案事業	地域創造支援事業(舞鶴山散策マップ、天童公園斜面安定整備)、事業活用調査(事業効果分析)									
	当初計画から削除した事業	基幹事業	公園(天童公園ビューポイント等の整備、天童公園散策路整備)			削除/追加の理由			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響			
		提案事業	散策路やビューポイント等の整備について、「クアオルト構想」との調整が必要と考えられ、事業期間内に整備することが困難となったため。									
	新たに追加した事業	基幹事業	公園(天童公園沼下トイレ、管理事務所整備)、地域生活基盤施設(天童公園駐車場整備)			親水空間に隣接する既存駐車場が未舗装で、バリアフリーに対応しておらず課題となっていた。また、あわせてトイレや管理事務所を整備することによって、天童公園の利便性向上や管理の効率化を図り、より一層の利用促進につなげるため計画に追加した。			天童公園の駐車場、沼下トイレ及び管理事務所の整備を追加したことにより、天童公園利用者の利便性の向上、利用促進が図られるため、指標1および指標3の数値目標を上方修正する。			
提案事業		-										
交付期間の変更	当初	平成25年度～平成29年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響								
	変更	平成 年度～平成 年度										
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値	目標値	数値		目標	1年以内の	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ 予定時期	
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値	達成度	達成見込み			
	指標1	天童公園利用未経験率	%	12.7	H24	9.1	H29	1.7	○	あり	整備の効果により、天童公園の利用未経験者が大幅に減少し、目標の達成となった。天童公園の親水空間、園路、駐車場などの整備によって、今まで天童公園に訪れたことがなかった市民も天童公園に訪れるようになった傾向がみられ、拠点としての吸引力が増したことが、利用未経験者率の減少に繋がったと考えられる。	平成30年4月
	指標2	通りの歩行者減少率	%	-15.1	H20-24	0.0	H24-29	24.8	○	あり	整備前は歩行者数が減少傾向にあったが、整備後は増加し、目標を達成した。道路が整備されたことにより、安全で快適に歩行できるようになったことや歩道照明、クロマツ、ベンチ等の整備によって、歩みを促す空間を創出したことが、通りの歩行者の減少率の抑制に繋がったと考えられる。	平成30年10月
指標3	地区内観光・公園施設の認知度	%	71.7	H24	80.0	H29	70.0	×	あり	平成24年度の従前値を評価値が下回る結果となり、数値目標を達成しなかった。指標値に影響を及ぼすと考えられる駐車場、案内板整備が完了していない点や、アンケートの回答者について、県外からの来訪者の割合が大きくなったことが一因と考えられる。	平成30年4月	
									なし	●		
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値	目標値	数値		目標	1年以内の	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ 予定時期	
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値	達成度	達成見込み			
	その他の数値指標1	歴史的文化的観光施設の入れ込み客数	人	464,626	H24	/	/	473,846	/	/	平成28年度までの入れ込み客数は確実に増加し、平成29年度の推計値では平成24年度の約1.1倍の人数となっている。天童公園利用未経験者率の減少や、他の歴史的文化的観光施設への入れ込み客数の増加など、「『歴史文化ゾーン』と『芸術文化ゾーン』の都市機能及び環境の向上を図り、その吸引力を高める。」という目的を果たしていると考えられる。	平成30年4月
その他の数値指標2	舞鶴山の満足度	%	94.1	H24	/	/	97.0	/	/	平成24年度の従前値(94.1%)から平成29年度の評価値(97.0%)までに約2.9%増加という結果であった。天童公園の整備に伴い、満足度が増加し、「『歴史文化ゾーン』と『芸術文化ゾーン』の都市機能及び環境の向上を図り、その吸引力を高める。」という目的を果たしたと考えられる。	平成30年4月	
4)定性的な効果発現状況	<ul style="list-style-type: none"> 市民アンケートでは、舞鶴山の整備に期待する意見が多く寄せられ、天童市民のまちづくりの対する意識の高まりが感じられた。 天童温泉街が隣接しているが、宿泊客に対して、愛宕沼親水空間を含む天童公園の散策を紹介するようになっており、訪れた観光客からも好評との声寄せられている。 砂利敷き駐車場や鬱蒼とした愛宕沼が天童公園の入口にあったが、親水空間や駐車場の整備に伴い、天童公園の顔といえるエリアが形成された。公園入口が分り易くなったことに加え、公園全体としてのイメージが好転したと考えられ、隣接する地域には、飲食店や小売店が出店し、保育園の開園も予定されており、以前よりも賑わいを感じられる地域となった。 											
5)実施過程の評価	実施内容					実施状況					今後の対応方針等	
	モニタリング	なし				都市再生整備計画に記載し、実施できた					整備計画終了後も、地区内の公共空地へのポケットパーク整備を予定しており、必要に応じて、説明会や意見交換を実施する。	
	住民参加プロセス	アンケート調査により、市民からの様々な意見・要望を確認することができた。また、説明会等の実施を通して、事業計画の趣旨や整備内容を伝えながら、円滑に事業を進めることができた。				都市再生整備計画に記載し、実施できた						
						都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した						
持続的なまちづくり体制の構築	第1期計画時から「天童古城西まちづくり委員会」及び「天童古城西羽州街道まちなみ委員会」と景観や照明灯デザインなどについて意見交換し、第2期計画でも踏襲した。また地区名称サインの設置について意見交換を行った。				都市再生整備計画に記載し、実施できた					地域住民が主体となった活動が継続的に行われるよう、必要に応じて側面支援を行う。		
					都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した							
				都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった								

様式2-2 地区の概要

天童古城地区(第2期)(山形県天童市) 都市再生整備計画の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値				
大目標: まちの資源を生かした多様な交流の創出と、人・まち・自然とのふれあいを肌で実感できるまちづくり 目標1: 「歴史文化ゾーン」と「芸術文化ゾーン」の都市機能及び環境の向上を図るとともに、その吸引力を高める 目標2: 地区の歴史的環境を活かして発展させることにより、安全で快適かつ風格のある景観を形成する 目標3: 「歴史文化ゾーン」・「芸術文化ゾーン」と「地区の歴史的環境」が一体となって、地区のイメージを強化・向上するとともに、「天童の心」としての情報発信を図る	天童公園利用未経験率	単位: %	12.7	H24	9.1	H29	1.7	H29
	通りの歩行者減少率	単位: %	-15.1	H20-24	0.0	H24-29	24.8	H29
	地区内観光・公園施設の認知度	単位: %	71.7	H24	80.0	H29	70.0	H29



まちの課題の変化	<ul style="list-style-type: none"> 地区内の道路や案内板等を整備することにより、回遊性を高め「歴史文化ゾーン」と「芸術文化ゾーン」相互の連携が向上し、歴史的芸術的文化的拠点としての環境整備が図られた。しかしながら、目標に掲げていた「地区内観光・公園施設の認知度」は下がっており、各施設の個々の魅力を高めるソフト面での取組みを合わせて行っていく必要があると考えられる。 整備により地区周辺への観光客が増加しているものの、天童駅前通りなど、早期に整備された地域の歩道などの老朽化が進んでおり、まちの賑わいも低下してきている。駅を利用する観光客が駅から温泉街まで歩きたくなるような環境整備や取り組みにより、活気ある地域づくりが新たな課題となってきている。
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	<ul style="list-style-type: none"> 歴史的芸術的文化的拠点としての環境の維持・・・地区内施設間で連携したイベントの開催などソフト面を含めた取組みにより、来訪者の回遊性を高め、歴史的芸術的文化的拠点としての魅力を持続させる。 天童公園の利用の拡大・・・訪れた市民が、また来たいと思えるような魅力ある公園となるように施設の維持管理、補修等を定期的に行う。また、イベントや学校の遠足、子供会行事などでバーベキュー広場や親水空間などをはじめとした天童公園の利用を促すPRや広報活動を行う。 歴史的景観を活かした、地区景観の保全・強化・・・地区景観を維持するために継続的な施設の維持管理や、地域住民と一体となった活動、住民組織の活動への側面支援を行う。また、今後、新たに施設を整備する際も、まちの景観に合わせた対応を行う。 地区内観光・公園施設の認知度・・・個々の施設でもより魅力を高める取組みを行うことや、観光マップの活用、ホームページやSNSを活用した宣伝、広報活動を行うことにより、来訪者の地区内観光・公園施設についての認知度を向上させる。また、地区の魅力魅力をさらに引き出す施設の整備検討を引き続き行う。 周辺地区との好循環を促す環境づくり・・・市外から訪れた観光客が、天童古城地区のみならず、周辺地区を含めて回遊しやすい環境整備を行う。また、合わせて周辺地区(駅前や一日町など)側でも、回遊しやすくなるような賑わいを創出する取組みを行う。

都市再生整備計画 事後評価シート (添付書類)

(1) 成果の評価

- 添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況
- 添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測
- 添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(2) 実施過程の評価

- 添付様式3-① モニタリングの実施状況
- 添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況
- 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

(3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- 添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

(4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5-② まちの課題の変化
- 添付様式5-③ 今後のまちづくり方策
- 添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6-当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6-参考記述 今後、交付金の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

(5) 事後評価原案の公表

- 添付様式7-事後評価原案の公表

(6) 評価委員会の審議

- 添付様式8-評価委員会の審議

(7) 有識者からの意見聴取

- 添付様式9-有識者からの意見聴取

(1) 成果の評価

添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		●			
B. 目標を定量化する指標		●			
C. 目標値	●		指標1「天童公園利用未経験者率」10.0% 指標3「地区内観光・公園施設の認知度」77.4%	指標1「天童公園利用未経験者率」9.1% 指標3「地区内観光・公園施設の認知度」80.0%	天童公園の駐車場、トイレ、管理事務所の整備を追加したことにより、利便性が向上し、利用促進が図られると考えられるため、指標1および指標3の数値目標を上方修正する。
D. その他()					

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
道路	一日町下北目2号線	38.5	道路拡幅(4.0m) L=100m	22.1	道路拡幅(4.0m) L=100m	平成28年度に事業費の減額および事業期間の変更	補償額の見直しによる減額と、用地取得に伴う事業期間の延長であり、事業内容は変更していないため、指標への影響は生じない。	●	
公園	天童公園	588.2	親水空間整備 A=4.0ha ビューポイント整備 N=3箇所 散策路整備 L=2,500m 園路広場整備 A=2.7ha	389.0	親水空間整備 A=4.0ha 沼下トイレ整備 A=30.0㎡ 管理事務所整備A=58.0㎡ 園路広場整備 A=1.3ha	平成27年度に事業内容および事業量の変更	トイレ、管理事務所の整備を追加したことにより、天童公園の利便性が向上し、利用促進が図られるため、指標1及び指標3の数値目標を上方修正する。		●
地域生活基盤施設	案内板	13.9	N=17基	13.9	N=12基	平成27年度に事業量の変更	散策路整備の減に伴い、設置箇所数を減とした。指標1及び指標3の数値目標に影響があるが、追加した事業による影響に相殺されると考えられるため、数値目標の下方修正は行わない。		●
	天童公園駐車場	-	-	38.0	A=4,400㎡ 駐車場台数=108台	平成27年度に事業の追加	駐車場の整備を追加したことにより、天童公園の利便性が向上し、利用促進が図られるため、指標1及び指標3の数値目標を上方修正する。		●
高質空間形成施設	奥の細道	53.9	北目五日町線L=430m	53.9	北目五日町線L=430m	平成28年度に事業期間の延長	用地交渉や電柱移転に係る事業期間の延長であり、事業内容は変更していないため、指標への影響は生じない。		●
	天童古城西照明施設	40.0	照明灯 N=25基	40.0	照明灯 N=25基	変更なし		●	
	天童古城西沿道環境施設整備	1.6	ベンチ・ストリートファニチャー等 N=2箇所	1.6	ベンチ・ストリートファニチャー等 N=2箇所	平成28年度に事業期間の延長	県の街路事業の進捗に合わせた事業期間の延長であり、事業内容は変更していないため、指標への影響は生じない。		●
	天童古城西松並木整備	7.0	クロマツ・木製ソーリーサークル N=14箇所	7.0	クロマツ・木製ソーリーサークル N=14箇所	平成28年度に事業期間の延長	県の街路事業の進捗に合わせた事業期間の延長であり、事業内容は変更していないため、指標への影響は生じない。		●

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指標	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	単位	(参考)※1 計画以前の値 (ア)	従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値(エ)		目標達成度※2		1年以内の達成見込みの有無		
				基準年度	基準年度	基準年度	目標年度					あり	なし	
指標1	天童公園利用未経験率	%	天童市民を対象としたアンケート調査を実施し、値を計測する。年間に天童公園に訪れる回数「0回」と回答した人数の割合を算出する。		12.7	H24	9.1	H29	モニタリング		モニタリング			
									事後評価	確定見込み ●	1.7	事後評価	○	
指標2	通りの歩行者減少率	%	平成29年10月に都市計画道路山形老野森線において、平日及び休日の歩行者等の断面交通量を実測する。実測したデータを基に通りの歩行者の減少率を算出する。		-15.1	H20-24	0.0	H24-29	モニタリング		モニタリング			
									事後評価	確定見込み ●	24.8	事後評価	○	
指標3	地区内観光・公園施設の認知度	%	来訪者を対象としたアンケート調査を実施し、値を計測する。地区内10施設(※)の認知度について、全体から「知らない」と回答した人数を引いた人数の割合を算出する。		71.7	H24	80.0	H29	モニタリング		モニタリング			
									事後評価	確定見込み ●	70.0	事後評価	×	

指標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	整備の効果により、天童公園の利用未経験者が大幅に減少し、目標の達成となった。天童公園の親水空間、園路、駐車場などの整備によって、今まで天童公園に訪れたことがなかった市民も天童公園に訪れるようになった傾向がみられ、拠点としての吸引力が増したことが、利用未経験者率の減少に繋がったと考えられる。	特になし
指標2	整備前は歩行者数が減少傾向にあったが、整備後は増加し、目標を達成した。道路が整備されたことにより、安全で快適に歩行できるようになったことや歩道照明、クロマツ、ベンチ等の整備によって、歩きを促す空間を創出したことが、通りの歩行者の減少率の歯止めに繋がったと考えられる。	特になし
指標3	平成24年度の従前値を評価値が下回る結果となり、数値目標を達成しなかった。指標値に影響を及ぼすと考えられる駐車場、案内板整備が完了していない点や、アンケートの回答者について、県外からの来訪者の割合が大きくなったことが一因と考えられる。	天童桜まつりの開催に合わせてアンケートを実施したが回答者の構成が大きく異なっている。今回のアンケートでは、前回と比べ、県外からの来訪者の割合が14.1%増(32.5%→46.6%)、天童市民の割合9.9%減(41.8%→31.9%)となっており、認知度に係る指標の計測に影響があったと考えられ、フォローアップ時には回答者の構成に配慮が必要である。

※1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

※2 目標達成度の記入方法

○: 評価値が目標値を上回った場合

△: 評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

×: 評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

※指標3に係る地区内10施設について

- ①愛宕沼 ②バーベキュー広場 ③愛宕神社 ④大将棋盤 ⑤大ケヤキ広場 ⑥展望台
⑦建勲神社 ⑧つつじ公園 ⑨旧東村山郡役所資料館 ⑩出羽桜美術館・斉藤真一心の美術館

添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方(時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値(ア)		従前値(イ)		数値(ウ)			本指標を取り上げる理由	その他特記事項(指標計測上の問題点、課題等)
				基準年度		基準年度					
その他の数値指標1	歴史的文化的観光施設の入れ込み客数	人	地区内及び地区周辺にある観光施設等の入れ込み客数を集計する。 ・天童公園 ・旧東村山郡役所資料館 ・出羽桜美術館 ・広重美術館 ・将棋資料館 ・天童市美術館	444,167	H19	464,626	H24	モニタリング			指標③「地区内観光・公園施設の認知度」については目標を達成していないが、周辺の歴史的文化的観光施設における入れ込み客数に増加傾向が見られる。 歴史的文化的地区の拠点としての吸引力を測る指標として、未達成の指標③を補完する「その他の指標」として取り上げることは相応しいと考えられる。
								事後評価	確定	見込み ●	
その他の数値指標2	舞鶴山の満足度	%	来訪者を対象としたアンケート調査において、「舞鶴山にまた訪れたいと思いますか?」という質問に対し、「ぜひ訪れたい」「訪れたい」と回答した人数の割合を算出する。	-		94.1	H24	モニタリング			天童古城地区(第2期)の整備効果を測るために、天童公園(舞鶴山)の来訪者が「また訪れたい」という満足度を指標に取り入れることは、直接、地域の魅力を測る指標として相応しいと考えられる。
								事後評価	確定	見込み ●	

※1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

・市民アンケートでは、舞鶴山の整備に期待する意見が多く寄せられ、天童市民のまちづくりの対する意識の高まりが感じられた。
 ・天童温泉街が隣接しているが、宿泊客に対して、愛宕沼親水空間を含む天童公園の散策を紹介するようになっており、訪れた観光客からも好評との声が寄せられている。
 ・砂利敷き駐車場や鬱蒼とした愛宕沼が天童公園の入口にあったが、親水空間や駐車場の整備に伴い、天童公園の顔といえるエリアが形成された。公園入口が分かり易くなったことに加え、公園全体としてのイメージが好転したと考えられ、隣接する地域には、飲食店や小売店が outlets し、保育園の開園も予定されており、以前よりも賑わいが感じられる地域となった。

(2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

添付様式3-① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
なし	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		
	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
市道北目五日町線等整備事業説明会	予定どおり実施した	【実施頻度】 1回 【実施時期】 平成25年10月 【実施結果】 都市再生整備計画による事業概要の周知を図りながら、より具体的な用地や電柱の民地建柱等の協力など住民側との調整を行っていくための環境整備が図られた。	役割を終えているため終了。
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		
市道北目五日町線の工事に関する説明会	予定どおり実施した	【実施頻度】 1回 【実施時期】 平成28年10月 【実施結果】 住民生活に直接影響が生じる事業であったが、整備計画や工事内容等の説明、住民からの質疑等への対応を通して、地域の理解を得られ、円滑に事業を進めることができた。また、今後実施する事業の意見交換にもつながっており、地域のまちづくりに対する意識の高まりを感じられた。	当該、整備計画終了後も、地区内の公共空地へのポケットパーク整備を予定しており、必要に応じて、説明会や意見交換を実施する。
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名:組織の概要	
事業終了後の継続的なまちづくり活動として、「天童古城西まちづくり委員会」を中心に「まちづくり協定」の維持のみならず、諸事業の企画・実施・運営等のまちづくり活動を進めていく。	予定どおり実施した	第1期計画時から、景観や照明灯デザインなどについて意見交換し、第2期計画でも踏襲した。また地区名称サインの設置について意見交換を行った。	天童古城西まちづくり委員会、天童古城西羽州街道まちなみ委員会	地域住民が主体となった活動が継続的に行われるよう、必要に応じて側面支援を行う。
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
天童市社会資本総合整備計画(天童古城地区(第2期)都市再生整備計画)事後評価検討委員会	建設部長、総務部市長公室室長補佐、市民部文化スポーツ課長、経済部商工観光課長、建設部建設課長、教育委員会生涯学習課長	平成30年2月1日	都市計画課都市整備係 (都市再生整備計画担当課)

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標1		指標2		その他の数値指標1		その他の数値指標2	
指標名		天童公園利用未経験率		通りの歩行者減少率		歴史的・文化的観光施設の入れ込み客数		舞鶴山の満足度	
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見
基幹事業	道路(一日町下北目2号線)	○	整備の効果により、天童公園の利用未経験者が大幅に減少し、目標の達成となった。天童公園の親水空間、園路、駐車場などの整備によって、今まで天童公園に訪れたことがなかった市民も天童公園に訪れるようになった傾向がみられ、拠点としての吸引力が増したことが、利用未経験者率の減少に繋がったと考えられる。	◎	整備前は歩行者数が減少傾向にあったが、整備後は増加し、目標を達成した。道路が整備されたことにより、安全で快適に歩けるようになったことや歩道照明、クロマツ、ベンチ等の整備によって、歩きを促す空間を創出したことが、通りの歩行者の減少率の歯止めにつながったと考えられる。	◎	平成28年度までの入れ込み客数は確実に増加し、平成29年度の推計値では平成24年度の約1.1倍の人数となっている。天童公園利用未経験者率の減少や、他の歴史的・文化的観光施設への入れ込み客数の増加など、『歴史文化ゾーン』と『芸術文化ゾーン』の都市機能及び環境の向上を図り、その吸引力を高める。』という目的を果たしていると考えられる。	○	平成24年度の従前値(94.1%)から平成29年度の評価値(97.0%)までに約2.9%増加という結果であった。天童公園の整備に伴い、満足度が増加し、『歴史文化ゾーン』と『芸術文化ゾーン』の都市機能及び環境の向上を図り、その吸引力を高める。』という目的を果たしたと考えられる。
	公園(天童公園)	◎		○		◎			
	案内板	◎		◎		◎			
	天童公園駐車場	◎		○		◎			
	奥の細道	○		◎		○			
	天童古城西照明施設	○		◎		○			
	天童古城西沿道環境施設整備	○		◎		○			
天童古城西松並木整備	○	◎	○						
提案事業	防災拠点施設整備	○		◎		○		○	
	事業効果分析	-		-		-			
関連事業	山形広域都市計画道路事業(都市計画道路山形老野森線)	-		◎		○		○	

※指標改善への貢献度

- ◎：事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
- ：事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
- △：事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
- ：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	指標1	指標2	その他の数値指標1	その他の数値指標2
今後の活用	まちの資源である舞鶴山の歴史的・文化的魅力が損なわれないよう、整備した施設の維持管理の継続が必要である。また、舞鶴山の歴史的・文化的施設の活用を強化し、隣接する地区間を含めた交流の推進を図る。今後、ハードの整備だけでなく、ソフト面を充実させるなど、利用者が減少しないような取組みを含めた検討を行っていく必要がある。	整備した施設の維持管理を継続的に行い、都市機能の維持や歴史的景観の保全に努める。	今回の事業で天童公園の整備を行ったことで、天童古城地区及び周辺地区の歴史的・文化的施設の観光客数が増えた。スポット観光から地域観光への取り組みをより強化するとともに、一層の都市機能及び環境の向上を図る。	整備後、リニューアルによる効果が確認できた。今後は整備した施設の維持管理や清掃による周辺の環境維持、自然環境の保全を継続する必要がある。地域住民と行政が一体となった取組みの検討なども考えられる。

添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種類		指標3												
指標名		地区内観光・公園施設の認知度												
種別	事業名・箇所名	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	
基幹事業	道路(一日町下北目2号線)	-	平成24年度の従前値を評価値が下回る結果となり、数値目標を達成しなかった。指標値に影響を及ぼすと考えられる駐車場、案内板整備が完了していない点や、アンケートの回答者について、県外からの来訪者の割合が大きくなったことが一因と考えられる。	I										
	公園(天童公園)	△												
	案内板	××												
	天童公園駐車場	×												
	奥の細道	-												
	天童古城西照明施設	-												
	天童古城西沿道環境施設整備	-												
	天童古城西松並木整備	-												
提案事業	防災拠点施設整備	-												
	事業効果分析	-												
関連事業	山形広域都市計画道路事業(都市計画道路山形老野森線)	-												

※目標未達成への影響度

- ××: 事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の直接的な原因となった。
- ×: 事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の間接的な原因となった。
- △: 数値目標が達成できなかった中でも、ある程度の効果をあげたと思われる。
- : 事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

※要因の分類

- 分類Ⅰ: 内的な要因で、予見が可能な要因。
- 分類Ⅱ: 外的な要因で、予見が可能な要因。
- 分類Ⅲ: 外的な要因で、予見が不可能な要因。
- 分類Ⅳ: 内的な要因で、予見が不可能な要因。

<p>改善の方針 (記入は必須)</p>	<p>フォローアップ時に、アンケートの回答者の構成に配慮して整備効果の検証を行う。また、今後も、歴史的文化的地区の環境を向上する取り組みを継続し、観光・公園施設の認知度の増加に繋げることや、来訪者が多く訪れるイベント等の機会を利用し、それぞれの資源が連携して情報発信を行うなどの手法が考えられる。地区の魅力をさらに引き出す施設の整備を引き続き検討する。(もみじ園、散策道、ビューポイント、散策マップなど)</p>
--------------------------	--

(4) 今後のまちづくり方策の作成

添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
天童市社会資本総合整備計画(天童古城地区(第2期)都市再生整備計画)事後評価検討委員会	建設部長、総務部市長公室室長補佐、市民部文化スポーツ課長、経済部商工観光課長、建設部建設課長、教育委員会生涯学習課長	平成30年2月1日	都市計画課都市整備係 (都市再生整備計画担当課)

添付様式5-② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
「歴史文化ゾーン」及び「芸術文化ゾーン」のトータルな魅力・機能の向上とともに、相互の連携を図り、天童市の歴史的芸術的文化的拠点としての環境整備を図る。	地区内の道路や案内板等を整備することにより、地区内の回遊性を高め、「歴史文化ゾーン」と「芸術文化ゾーン」相互の連携が向上し、本市の歴史的芸術的文化的拠点としての環境が強化された。	「地区内観光・公園施設の認知度」を高めることを指標の目標としていたが、認知度が下がるという結果となった。	天童古城地区内の施設等への入れ込み客数が増加しているが、隣接する駅前地区の賑わいの低下や施設の老朽化などが見られるため、隣接地区とも人の流れを促す取組みを考えたい必要がある。
「地区の歴史的環境」の保全整備を図ることにより、2つの拠点ゾーンと一体となったトータルな魅力の向上を図ることにより、「天童の心」としてのアピール性を高める。	天童公園(舞鶴山)とその周辺の環境が整備されたことにより、地域としての魅力が向上し、「天童の心」としての意識が高まったことで、天童公園の利用未経験者率の減少につながった。	天童公園の利用未経験者率は整備前と比べて大幅に減少しているが、利用未経験者数がゼロに近づくよう、天童公園の魅力を保ちながら、さらに引き出す取組みが必要と考えられる。	
地区住民の意識・活動と一帯となつて、地区の景観を改変しがちな道路整備事業を、むしろ地区景観の保全・強化のための契機として活かす。	県が施行する都市計画道路山形老野森線の整備に合わせて、歴史的景観に合わせた歩道照明やベンチ、松並木の整備を行い、地区の景観が一層強化された。	県が施行する都市計画道路山形老野森線の整備が今年度終了する予定であったが、進捗が遅れており、現段階では地区景観が整っている状況となっていない。	

添付様式5-③ 今後のまちづくり方策

	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
A欄 効果を持続させるため に行う方策	歴史的芸術的文化的拠点としての環境の維持	「歴史文化ゾーン」と「芸術文化ゾーン」の相互連携により、地区内の回遊性を高める取組みを行い、歴史的芸術的文化的拠点としての魅力を持続する。	各施設が地区内の他の施設と連動したイベント等の開催
	天童公園の利用の拡大	天童公園に訪れた市民が、また訪れたいと思えるような魅力ある天童公園となるように、継続して維持管理を行う。また利用を促すためのPRを行う。	継続的な公園施設の維持管理、補修整備 天童公園の魅力についてのPR イベント、学校の遠足、子供会行事での利用を促す広報活動
	歴史的景観を活かした、地区景観の保全・強化	歴史的景観を維持するために、既存施設の維持・更新を定期的に行う。また、新規に施設等を整備する際にも、地区景観にマッチしたデザインとする。	地域住民と一体となった清掃活動 継続的な構造物の維持補修整備 地区景観に合わせたポケットパークの整備

	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
B欄 改善策 ・未達成の目標を達成するための改善策 ・未解決の課題を解消するための改善策 ・新たに発生した課題に対する改善策	地区内観光・公園施設の認知度	各施設の個々の魅力を高める取り組みや情報発信により、来訪者の地区内観光・公園施設についての認知度を向上させる。また、地区の魅力をさらに引き出すための施設整備について検討を行う。	観光案内所での観光マップ配布 各施設を利用したイベントの開催 ホームページやSNSを活用した宣伝広報活動 もみじ園、散策路等の整備
	周辺地区との好循環を促す環境づくり	市外から訪れた観光客が、天童古城地区から周辺地区を含め、回遊しやすい環境整備を行う。また、これに合わせて隣接地区（駅前や一日町等）側でも回遊しやすくなるような魅力づくり、賑わいを創出する取組みを行う。	天童駅から天童公園、温泉街間の老朽化した歩道等の整備 回遊バス等公共的な移動手段の整備 中心市街地活性化事業 まち歩きマップの作成、イベントの開催

■様式5-③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。（チェック欄）

●	交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題（都市再生整備計画）を再確認した。
●	事業の実施過程の評価（添付様式3）を再確認した。
●	数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用（添付様式4-②）を再確認した。
●	数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針（添付様式4-③）を再確認した。
●	残された課題や新たな課題（添付様式5-②）を再確認した。

添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

<p>・天童公園（舞鶴山）内では、建設部としての公園事業、経済部としてのクアオルト事業、教育委員会が進めている発掘調査やその後の対応などがあり、今後、一体的な構想の下で事業を進めていく必要がある。</p> <p>・駅前地域など、インターロッキングや照明灯など既存施設の老朽化が進んでおり、課題となっている。</p> <p>・観光面からすると、来街者が本市に期待するイメージを裏切らない、という考え方も必要。整備にあたっては、将棋駒のデザインやモチーフを取り入れるなども考えられるのではないか。</p>
--

添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2-①、2-②に記載した全ての指標について記入して下さい。
 ・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2-①、2-②から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指標		単位	従前値		目標値		評価値		目標達成度	1年以内の達成見込みの有無		フォローアップ計画			
			年度	年度	年度	年度				予定時期	計測方法	その他特記事項			
指標1	天童公園利用未経験率	%	12.7	H24	9.1	H29	確定	●	1.7	○	あり	→	平成30年4月	天童市民へのアンケート調査を実施し、値を計測する。年間に天童公園に訪れる回数「0回」と回答した人数の割合を算出する。	
							見込み				なし				
指標2	通りの歩行者減少率	%	-15.1	H20-24	0.0	H24-29	確定	●	24.8	○	あり	→	平成30年10月	平成30年10月に都市計画道路山形老野森線において平日・休日の歩行者等の断面交通量を実測する。実測したデータより通りの歩行者の減少率を算出する。	
							見込み				なし				
指標3	地区内観光・公園施設の認知度	%	71.7	H24	80.0	H29	確定	●	70.0	×	あり	→	平成30年4月	来訪者へのアンケート調査を実施し、値を計測する。地区内10施設の認知度について、全体から「あることを知らない」と回答した人数を引いた人数の割合を算出する。	
							見込み				なし ●				
その他の数値指標1	歴史的文化的観光施設の入れ込み客数	人	464,626	H24	/		確定	●	473,846	/	/	→	平成30年4月	地区内の「天童公園」「旧東村山郡役所資料館」「出羽桜美術館」および地区周辺の「広重美術館」「将棋資料館」「天童市美術館」の入れ込み客数を集計する。	
							見込み								
その他の数値指標2	舞鶴山の満足度	%	94.1	H24	/		確定	●	97.0	/	/	→	平成30年4月	来訪者へのアンケート調査において、「舞鶴山にまた訪れたいと思いますか？」という質問に対し、「ぜひ訪れたい」「訪れたい」と回答した人数の割合を算出する。	
							見込み								

添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標・成果の達成	うまくいった点	指標1「天童公園利用未経験率」、指標2「通りの歩行者減少率」には整備効果が表れ、目標を達成することができた。	指標を把握する作業の時期と、指標に影響を与える施設の整備時期を含めて作業工程の検討を行う。
	うまくいかなかった点	整備が完了していない時点でのアンケート実施となったことなどの影響から、結果として指標3「地区内観光・公園施設の認知度」については、目標の達成とはならなかった。	
数値目標と目標・事業との整合性等	うまくいった点	各指標とも事業内容に整合した指標を設定することができた。	地区のまちづくり目標を十分反映させた数値目標とすることで事業との整合性を図る。
	うまくいかなかった点	特になし。	
住民参加・情報公開	うまくいった点	アンケート調査を実施したことで、市民からの様々な意見・要望を確認することができた。また、説明会等の実施を通して、事業計画の趣旨や整備内容を伝えながら、円滑に事業を進めることができた。	住民が組織する協議会等との連携により、住民参画のまちづくりを図ることが考えられる。また、情報公開については、市HPに限定せず、他団体を巻き込んだ情報発信や、SNSを利用するなど多様な情報発信や公開の手法を検討する。
	うまくいかなかった点	市民から意見を聞くだけでなく、それを活かした取組みや、まちづくりに参加できる体制等があればよかった。	
PDCAによる事業・評価の進め方	うまくいった点	優先すべき事業の検討や見直しを行い、中間年に事業計画書の変更を行いながら円滑に事業を進めることができた。	常に事業進捗状況を把握することで、円滑な事業実施を図る。
	うまくいかなかった点	今回、モニタリング(中間評価)を実施しなかったが、中間年度にモニタリングの実施により整備効果を確認して、事業内容に活かすこともできたと考えられる。	
その他	うまくいった点	特になし。	
	うまくいかなかった点	特になし。	

添付様式6ー参考記述 今後、交付金の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

本市においては、平成30年度に芳賀地区の事後評価を予定している。当地区の事後評価の経験を踏まえて、事業効果の検証を円滑に進めていきたい。

(5) 事後評価原案の公表

添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	天童市ホームページ掲載	平成30年2月9日～2月23日	平成30年2月9日～2月23日	担当者への 書面、FAX、電子メール	都市計画課 都市整備係 (都市再生整備計画 担当課)
広報掲載・回覧・個別配布	広報に天童市ホームページ、 窓口閲覧にて原案を公表して いる旨を掲載	平成30年2月1日発行	平成30年2月9日～2月23日		
説明会・ワークショップ	-	-	-		
その他	窓口閲覧 (建設部都市計画課)	平成30年2月9日～2月23日	平成30年2月9日～2月23日		

住民の意見	なし				
-------	----	--	--	--	--

(6) 評価委員会の審議

添付様式8 評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	清水達也 公立大学法人首都大学都市環境学部講師(非常勤) 座長	第1回 平成30年3月7日	都市計画課 都市整備係 (都市再生整備計画担当)	天童市社会資本総合整備計画(天童古城地区(第2期)都市再生整備計画)評価委員会設置要綱	独自に設置 (地区内の各種団体代表者に学識経験者を含めた構成)
その他の委員	温泉協同組合・観光物産協会理事 観光ボランティアガイド副代表 天童南部公民館館長 近隣商店街代表				

審議事項		委員会の意見
事後評価手続き等にかかる審議	方法書	方法書に従い、事後評価が適正に実施されたことが確認された。
	成果の評価	「資料に成果が分かり易くまとめられている」、「資料以上の成果が感じられる」といった意見があった。
	実施過程の評価	「天童古城」と「天童織田藩」等の歴史的な情報の整理と地域住民等へのPRを行うことで、今回の整備効果を高めることができる、との意見があった。
	効果発現要因の整理	愛宕沼親水空間の整備は、ご高齢の方や、夫婦などの散策の他、健康づくりの為に散歩する方も増えており、非常に良かったとの意見があった。天童古城の散策を考えた場合は西側(建勲神社側)への整備も必要でなかったか、という意見があった。
	事後評価原案の公表の妥当性	事後評価原案の公表について、適切に行われたことが確認された。
	その他	特になし
	事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	事後評価の手続きについて、適切に進められたことが確認された。
今後のまちづくりについて審議	今後のまちづくり方策の作成	主に次のような意見があった。 ・天童公園(舞鶴山)内に散策道が必要。また、狭い道路が地区内に残っているので、分かり易い地区にするために早期の整備をお願いしたい。 ・天童の歴史に関する情報整理・PRが必要であり、今後も天童公園(舞鶴山)の整備に反映していく必要がある。 ・駅から温泉街までの通りが寂しくなっており、「温泉街に向かう」というイメージが不足している。 ・周辺地区も含め、人が行き交う工夫が必要。また、歩きたくなるような商店街づくりなど、ソフト部分での取組みも大事でないか。 ・天童古城に関連した案内板が少ないため、現在行っている発掘調査も絡めながら案内板を設置して欲しい。 ・天童公園(舞鶴山)の桜が弱ってきているため、長期での植栽計画などにより、舞鶴山の桜イメージを保っていく必要がある。 ・住みやすい街を作る事によって、街が豊かになり、人も豊かになって、そこから、「天童はいい街だ」とアピールできれば良い。
	フォローアップ	今後、フォローアップの実施について確認された。
	その他	特になし
	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	今後のまちづくり方策は妥当であることが確認された。
その他	特になし	